

(2)小児科の時間外診療体制

a)小児科医が毎日当直している病院は 20 病院、特定日の当直が 17 病院、全科管理当直+小児科オンコールが 3 病院、全科管理当直のみが 1 病院であった。

常勤医師数	1-2人	3-4人	5-6人	7-8人	9人以上	計
毎日当直	1		7	8	4	20
特定日当直	2	7	5	3		17
全科管理当直+オンコール	2	1				3
全科管理当直		1				1

b) 小児科の時間外診療に関わっている小児科医の数は当直医 1 人で対応しているのは 24 病院 (このうち NICU 併設は 9 病院)、当直医 2 人で対応は 6 病院 (NICU 併設は 3 病院)、当直医 1 人+オンコールは 10 病院 (NICU 併設は 2 病院) であった。

c)小児科当直に院外の医師の応援を頼んでいるのは、毎日当直では 16 病院 (80%) であった。

小児科の当直体制と院外医師の応援の有無

	院内のみ	院内+応援	応援のみ	未回答	計
毎日当直	3	15	1	1	20
特定日当直	9	7	1		17
全科管理当直+オンコール	3				3
全科管理当直	1				1

d) 時間外診療の対象となる患者は、受診した全患者対象が 34 病院、受診歴のある患者を対象とするのは 6 病院であった。これを当直体制との関連で比較したところ、特定日に当直している病院は 17 病院全てが、毎日当直している病院では 16 病院が全患者を対象としていた。

	全患者	受診歴のある患者	計
毎日当直	16	4	20
特定日当直	17		17
全科管理当直+オンコール	1	2	3
全科管理当直		1	1

e) 時間外患者数を全患者対象と受診歴のある患者を対象の病院にわけて示した。

時間外診療の対象と1日当たりの平日夜間初期患者数

患者数	10人以下	11～20人	21～30人	31～40人	41人以上
全患者対象	9	6	10	2	4
受診歴のある患者対象	7				

時間外診療の対象と1日当たりの休日日勤初期患者数

患者数	10人以下	11～20人	21～30人	31～40人	41人以上
全患者対象	5	7	6	3	6
受診歴のある患者対象	3	3			

時間外診療の対象と1日当たりの休日夜間初期患者数

患者数	10人以下	11～20人	21～30人	31～40人	41人以上
全患者対象	8	3	5	4	9
受診歴のある患者対象	5	1			

f)次に入院対応について質問した。

病院として受診した小児救急患者のためにベッドを開けているのは16病院、病院と契約している公的医療機関や地域のためにベッドを開けているのは4病院で、20の病院はベッドの有無に関係なく診療を行っていた。

g)時間外診療の内容については、初期救急+二次救急が40病院で、二次救急患者のみは1病院のみであった。

当直の翌日の勤務状況では、30病院(73.2%)が通常勤務、半日勤務が9病院で、休日は1病院にしかみられなかった。

当直が負担になり、過労のために体調を崩した医師がいるかという質問では、“いる”は25病院で61%にのぼった。

(3)現状の評価、今後の希望

a)各病院で行っている小児救急医療について、小児科医の数は足りているかを質問した。不足とやや不足を合わせると38/41(92%)で足りないと答えた。

	足りている	やや不足	足りない
毎日当直	1	5	14
特定日当直	2	4	11
全科管理当直		3	
+オンコール			
全科管理当直			1

b) 医師一人で対応できる患者数について質問した。

患者数	10人以下	11～20人	21～30人	31～40人	41人以上
平日夜間	9	18	9		
休日日勤	3	7	15	3	1
休日夜間	9	9	17		

休日の日勤では病院により患者数にばらつきが見られたが、平日、休日とも夜間については30人を越える人数をあげるものはなかった。

c) 毎日24時間対応の小児救急を病院の常勤医がするには、小児科医が何名必要かを質問した。

医師数	3-4人	5-6人	7-8人	9-10人	11-12人	13-14人	15-16人
10床未満	1			2			
10～19床		4	4(1)	3(1)	1(1)		1(1)
20～29床		1	2	5(2)	1		1(1)
30～39床			4(2)	1		1	
40～49床					1(1)	2(2)	
50床以上				2(2)	1		
計	1	5	10(3)	13(5)	4(2)	3(2)	2(2)

()内はNICU併設している病院

7～10人を必要な小児科医の数とする病院が最も多く、全体の中央値は10名であった。これらの中からNICUを併設している病院を除いても、同様の傾向を認め、必要な小児科医の中央値は9名であった。

d) 各病院での時間外診療の状況をふまえて、小児の初期、二次救急に十分対応するには1日に当直医が何名必要かを質問した。

医師数	1人	1-2人	2人	2-3人	3人	3-4人	4人
平日夜間	13		27				
休日	1	1	29	1	3	1	5

平日夜間、休日ともに2名が最も多く、その理由としては、外来診療と入院治療の分離をあげるものが多かった。休日で3名以上の理由としては、日直、宿直の交代が述べられていた。

4. 今後の小児救急に対する展望、希望としては

開業医が初期救急に参加すべきである（16 病院）

（このうち小児科医に限定が 11、内科医を含む小児科標榜医が 7）

24 時間対応する初期救急センターの設立（14 病院）

（このうち二次は病院輪番が 7、二次も同センターで行うが 3）

大学や国立病院の小児救急医療への参加（13 病院）

小児科時間外診療の保険点数を上げる、医療機関への公的補助（9 病院）

三次救急施設の充実（5 病院）

【B】大阪府小児時間外救急患者の動態について

（研究目的及び方法）

小児救急医療体制整備を推進させるため小児救急医療支援事業が発足し、この事業の効率的運用を計るため小児救急患者の動態を研究した。

我々は大阪府医師会、大阪小児科医会、大阪府医療対策課の協力を得て、大阪府の二次医療圏救急医療体制表をもとに、初期救急医療機関（休日急病診療所など）と二次救急医療機関（病院など）、さらに小児科医会 A 会員（開業医）に対し、下記の要領で小児時間外救急のアンケートを行った。

- ・対象：15 歳未満の小児で、小児内科の救急患者（外傷などは除く）
- ・期間：2000 年 9 月 18 日午後 5 時から 10 月 18 日午前 9 時までの約 1 ヶ月間
- ・時間：平日は午後 5 時（夜診を行っている場合は終了後）から翌日午前 9 時まで
土曜は午前 9 時（午前診を行っている場合は正午）から翌日午前 9 時まで
日曜は午前 9 時（通常診療を行っている場合でも）から翌日午前 9 時まで
- ・内容：病院名、受診日、受診時刻、患者年齢、患者住所、入院の有無

アンケートは、各病院の院長、小児科部長、診療所の担当者あてに質問用紙を郵送し、回答は記入した用紙またはフロッピーディスクの郵送あるいはファクシミリにて回収した。

（結果）

大阪府二次医療圏救急体制表に基づく 110 病院とその他小児時間外救急を行っている 20 病院を合わせた 130 の医療施設からの回答率は 100%であった。その内訳は初期救急医療機関として 39 診療所、2 次救急医療機関として 71 病院、5 大学病院、その他 15 病院であった。受診患者数は 25656 人で府外からの受診患者 569 人を除く大阪府下で発生した患者数（発生患者数）は 25087 人であった。（表 1）

表 1、大阪府二次医療圏救急体制表に基づく小児時間外救急患者動態（開業医以外）

医療圏	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	発生患者	小児人口	発生率
豊能	2453	66	5	2	3	2	3	87	2621	155718	16.8
三島	103	1782	7	3	6	1	1	15	1918	113867	16.8

北河内	11	31	2616	227	5	1	6	268	3165	189654	16.7
中河内	2	0	21	2549	110	6	6	85	2779	108694	25.6
南河内	2	2	1	52	2701	92	16	27	2893	116436	24.8
堺市	5	0	2	14	129	2505	59	31	2745	122605	22.4
泉州	0	0	2	6	31	204	3062	14	3319	143914	23.1
大阪市	172	16	61	303	237	112	8	4738	5647	351859	16.0
発生者	2748	1897	2715	3156	3222	2923	3161	5265	25087	1302747	19.3
その他	181	41	60	41	49	36	42	119	569		
受診者	2929	1938	2775	3197	3271	2959	3203	5384	25656	1302747	19.7

大阪小児科医会 A 会員の内、大阪府下で開業している 350 人からの回答は 196 人で 56% の回答率であった。その内 133 人の開業医からの回答は受診患者数 0 人であったが、残りの 63 人の開業医の受診患者数の合計は 297 名でその内大阪府在住の患者数は 293 人あった。

(表 2)

表 2, 大阪府下の小児科開業医による小児時間外救急患者動態

医療圏	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	発生患者	小児人口	発生率
豊能	25	0	0	0	0	0	0	1	26	155718	0.2
三島	0	26	0	0	1	0	0	0	27	113867	0.2
北河内	0	0	16	2	0	0	0	1	19	189654	0.1
中河内	0	0	0	33	0	0	0	1	34	108694	0.3
南河内	0	0	0	0	22	2	0	0	24	116436	0.2
堺市	0	0	0	0	1	34	0	0	35	122605	0.3
泉州	0	0	0	0	0	1	16	1	18	143914	0.1
大阪市	4	0	1	3	0	0	0	102	110	351859	0.3
発生者	29	26	17	38	24	37	16	106	293	1302747	0.2
その他	1	1	0	2	0	0	0	0	4		
受診者	30	27	17	40	24	37	16	106	297	1302747	0.2

これらを合わせた大阪府下の小児時間外救急受診患者総数は 25953 人で、他府県からの受診患者 573 人を除く大阪府在住の小児時間外救急患者発生数は 25380 人であった。(表 3)

表 3, 大阪府二次医療圏救急体制表に基づく小児時間外救急患者動態 (全体)

医療圏	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	発生者	小児人口	発生率
豊能	2478	66	5	2	3	2	3	88	2647	155718	17.0
三島	103	1808	7	3	7	1	1	15	1945	113867	17.1
北河内	11	31	2632	229	5	1	6	269	3184	189654	16.8
中河内	2	0	21	2582	110	6	6	86	2813	108694	25.9
南河内	2	2	1	52	2723	94	16	27	2917	116436	25.1
堺市	5	0	2	14	130	2539	59	31	2780	122605	22.7
泉州	0	0	2	6	31	205	3078	15	3337	143914	23.2
大阪市	176	16	62	306	237	112	8	4840	5757	351859	16.4
発生者	2777	1923	2732	3194	3246	2960	3177	5371	25380	1302747	19.5
その他	182	42	60	43	49	36	42	119	573		
受診者	2959	1965	2792	3237	3295	2996	3219	5490	25953	1302747	19.9

大阪府下小児時間外救急患者発生数を小児人口 1000 に対する比率で見ると、府下全域では 19.6 人であったが、大阪府北部の豊能、三島、北河内と大阪市の 4 つの医療圏では 16.5～17.2 と低く、大阪府中南部の中河内、南河内、泉州と堺市の 4 つの医療圏では、22.9～26.0 と高かった。(表 3)

大阪府下の各医療圏の発生患者の内、他の医療圏の医療機関を受診した割合は平均 11%で、北河内の 17%と大阪市の 16%が特に高く、他の医療圏は 10%未満であった。(表 4)

(表 4) 医療圏別発生患者の動態

医療圏	小児人口	発生患者	1000対比*	圏外へ	率**	圏内受診者	率**
豊能	155718	2647	17.0	169	6%	2478	94%
三島	113867	1945	17.1	137	7%	1808	93%
北河内	189654	3184	16.8	552	17%	2632	83%
中河内	108694	2813	25.9	231	8%	2582	92%
南河内	116436	2917	25.1	194	7%	2723	93%
堺市	122605	2780	22.7	241	9%	2539	91%
泉州	143914	3337	23.2	259	8%	3078	92%
大阪市	351859	5757	16.4	917	16%	4840	84%
発生患者合計	1302747	25380	19.5	2700	11%	22680	89%

*小児人口 1000 人あたりの受診者数、**発生患者数に対する百分率

大阪府下の各医療圏の受診患者の内、圏外からの受診者の割合は、府下全域では 13%で

あったが、大阪府中南部の中河内、南河内、堺市と大阪府北部の豊能が 15～20%と高く、大阪府南部の泉州と大阪府北部の三島、北河内の医療圏では 4～8%と低かった。また他府県からの受診者の割合は、豊能の 6%を除いて他の医療圏では 1～2%であった。(表 5)

(表 5) 医療圏別受診者の動態

医療圏	小児人口	受診患者数	1000 対比*	圏外から	率**	他府県	率**
豊能	155718	2959	19.0	481	16%	183	6%
三島	113867	1965	17.3	157	8%	42	2%
北河内	189654	2792	14.7	160	6%	60	2%
中河内	108694	3237	29.8	655	20%	43	1%
南河内	116436	3295	28.3	572	17%	49	1%
堺市	122605	2996	24.4	457	15%	36	1%
泉州	143914	3219	22.4	141	4%	42	1%
大阪市	351859	5490	15.6	650	12%	119	2%
受診患者合計	1302747	25953	19.9	3273	13%	574	2%

*小児人口 1000 人あたりの受診者数、**受診患者数に対する百分率

小児時間外救急患者が大阪府二次医療圏救急体制表に基づくどの医療機関を受診しているかを医療圏別にみたものが表 6 である。小児時間外救急患者がこの救急体制表に示された初期医療機関を受診している割合はすべての医療圏で 50%以下であった。また南河内地域では小児時間外救急患者の 53%が大阪府の二次医療圏救急体制表に含まれない医療機関を受診していた。(表 6)

(表 6) 医療圏別時間外救急患者の受診状況

医療圏	受診患者 総数	初期医療機関			二次医療機関			その他の医療期間		
		受診者数	病院数	初/総	受診者数	病院数	二/総	受診者数	病院数	他/総
豊野	2929	565	5	19%	2386	5	81%	8	1	0%
三島	1938	869	3	45%	1036	9	53%	59	1	3%
北河内	2812	1190	9	42%	1457	8	52%	182	3	6%
中河内	3197	624	2	20%	2611	7	82%	0	0	0%
南河内	3271	459	5	14%	1111	9	34%	1725	6	53%
堺市	2959	467	2	16%	2522	7	85%	7	1	0%
泉州	3203	710	6	22%	2420	7	76%	89	2	3%
大阪市	5428	2498	7	46%	2555	19	47%	481	6	9%

さらに 44 市町村のなかで小児救急医療機関を持たない市町村が 11 で全体の 1/3 あり、また小児救急医療機関を整備している市町村でも小児時間外救急患者の受診率が 80%以上を示したのは 11 市のみであった。またこの 11 市町村のうち、その半数以上は豊能と三島の 2 つの医療圏に位置していた。(表 7)

(表 7) 各医療圏の市町村別の患者発生率と居住地内受診率

医療圏	市町村	発生率*	受診率		医療圏	市町村	発生率*	受診率	
			圏内	市内				圏内	市内
豊能		17.1	94%	83%	南河内		24.9	93%	56%
	池田市	23.5		85%		松原市	40.6		93%
	箕面市	16		86%		藤井寺市	33.8		74%
	豊中市	18.1		85%		羽曳野市	34.6		7%
	吹田市	16.3		83%		大阪狭山市	9.7		60%
	豊能町	6		0%		美原町	20.5		0%
	能勢町	2.2		17%		富田林市	20.4		71%
三島		17.2	93%	84%		太子町	20.2		0%
	摂津市	12.1		29%		河南町	15.5		0%
	茨木市	19		86%		千早赤坂村	2.9		25%
	高槻市	17.6		97%		河内長野市	14.6		51%
	島本町	12.8		17%	泉州		23.3	92%	52%
北河内		17	83%	64%		和泉市	24.2		41%
	枚方市	17		91%		高石市	23.1		28%
	交野市	18.1		44%		泉大津市	39		67%
	寝屋川市	15.9		78%		忠岡町	23.5		0%
	守口市	14.8		49%		岸和田市	22.4		90%
	門真市	15.1		39%		貝塚市	23.8		36%
	四条畷市	18.6		27%		泉佐野市	29.7		77%
	大東市	22		30%		熊取町	17.1		0%
中河内		26	92%	83%		田尻町	29.7		0%
	東大阪市	29.7		94%		泉南市	18.5		0%
	八尾市	23.2		76%		阪南市	11.8		11%
	柏原市	17.9		50%		岬町	1.3		0%
堺市	堺市	22.6	91%	91%	大阪市	大阪市	55.8	84%	64%

【C】大阪市小児時間外救急患者の動態について

【研究目的および方法】

全国的に小児救急医療体制の整備が重要な課題となり 8)、様々な取り組みがなされているが 9)、大阪市においてもここ数年、小児救急医療を取り巻く状況の変化が少しずつみられてきている。具体的には、大阪市内外における民間病院による夜間初期および二次救急への参画の増加とそれに対応した公立病院の役割である。こうした変化は、大阪市と同様、他の大都市においても予想される現象であり、その小児救急医療体制に与える影響について検証することは意味があると思われる。さらに、現在の小児救急医療体制のもとでの問題点とその改善方法についても考察する。方法は、平成 12 年 9 月 18 日から同年 10 月 18 日までの 1 ヶ月間、大阪市における小児の時間外診療を実施している公的診療所ならびに一般診療所、市立病院を含む公的病院、民間病院に関して、診療実績を受診時刻、患者年齢、患者住所、入院の有無について調査票を送付し、回答を得た。

【結果】

1. 回答率：公的急病診療所 100%、病院(公的および民間) 100%、一般診療所 56%
2. 大阪市の概要 (図 1:表 1)

大阪市は面積 221.27 平方キロメートル、24 の区からなる政令市で推定人口は 2,593,937 人(1999 年 8 月)である。小児人口(351,859 人)は、中心部に少なく、周辺部に多いドーナツ化現象を示しており、0 歳児人口分布からは今後も同様の傾向を示すことが推測される。大阪市は全体で 1 つの二次医療圏を形成しているが、面積、人口などから便宜上東西南北の 4 基本医療圏を設けている(図 2)。しかし、小児救急医療体制を考える場合、このようなブロック分けは、行政施策として夜間急病診療所を 1 ヶ所しか設けていないことから、あまり意味を持たない。そこで大阪市全体を一つとして考えたシステムを検証した。

3. 小児救急医療体制の現状

大阪市における小児救急医療体制は、大阪市が府医師会とともに行政施策として実行する公的なシステム(事業主体：大阪市救急医療事業団)と、それ以外の主として民間病院が独自に行う救急診療とに分かれる。公的システムでは、初期救急として、平日、土曜、休日の夜間の中央急病診療所、そして休日昼間帯の 6 ヶ所の休日急病診療所を基本としている。また、二次救急医療体制としては夜間の中央急病診療所からの後送病院として市立病院 1 ヶ所と輪番制による民間病院を 1 ヶ所確保、休日昼間帯には市立病院や民間病院を後送病院としている。三次救急に関しては市立総合医療センターを始め三次医療機関で対応している。

(1) 公的システム

大阪市は、大阪府医師会とともに大阪市救急医療事業団を通じて市内の時間外救急医療に対応すべく以下の施設を整備し、運営を行ってきている。

① 公的初期救急体制 (図 3)

診療時間

中央急病診療所

平日 22時から翌日6時

土曜 15時から翌日6時

休日 17時から翌日6時

休日急病診療所(市内6ヶ所)

休日 10時から17時

②公的二次救急体制(図4、5)

休日昼間時間帯については、市内6ヶ所の休日急病診療所からの後送入院受け入れ先として、日曜が輪番制による3市立病院(十三、北、住吉)と受け入れ可能な民間病院、祝日が受け入れ可能な民間病院となっている。過去の実績をもとに示す。

夜間については、中央急病診療所からの後送入院受け入れ先として、市立総合医療センターが毎日固定、そして輪番制による民間病院を1ヶ所確保している。過去の実績をもとに示す。

(2)公的システムによらない救急医療(図6)

公的急病診療所や大阪市立病院以外の医療機関による救急医療は、システム化されたものは存在しない。今回の調査や過去の実績から時間外診療を行っていると思われる病院を示す。

(3)大阪市における小児時間外患者数(初期救急)

①平成12年9月18日から同年10月18日までの1ヶ月間に大阪市に居住する住民における小児時間外患者総数は、5,757人で、小児人口1000人あたり16.4/月となる。大阪市住民5,812人中、大阪市内の医療機関を受診したのは4,843人(84.1%)であった。

②年齢別患者割合(表2:図7、8、9)

受診者全体では、1歳未満が20.4%、3歳未満が53.3%を占めていた。これを受診時間帯別にみると、昼間帯(9時から19時)、準夜帯(19時から24時)、深夜帯(0時から9時)では、各図のようになる。各時間帯ともに3歳未満の乳幼児の割合が高い傾向が認められ、明らかな差はなかった。

③曜日別患者数(表3:図10)

平日については患者数に大きな差はない。休日は、昼間時間帯の患者も算定しているため平日に比して多い。同じ休日でも、日曜日は祝日の2倍近い患者数となる。

④時間帯別患者数(表4:図11)

昼間帯の午前9時から午後7時までで、全体の46.9%を占め、午前中に受診する傾向が認められた。午後7時から午前0時までは、34.8%であった。深夜帯の午前0時から午前9時までは18.3%で、特に午前4時以降の患者数の減少は顕著であった。

⑤住所区別患者数と割合(表5:図12)

患者数そのものでは、平野区に在住する小児が圧倒的に多く、ついで住之江区、住吉区、東住吉区といった南部地区に多い。これを小児人口千人あたりに補正すると、各区の差は

減少するものの、平野区、此花区、港区、西淀川区、北区、浪速区で患者発生率が高く、生野区、福島区で低かった。

⑥住所別受診医療機関 (図 13)

ほとんどの区においては、自区もしくは隣接する周辺各区に存在する医療機関に受診できている。一方、東淀川区、平野区、東住吉区、住吉区といった周辺部に位置する各区では、隣接する吹田市、松原市、東大阪市、八尾市、堺市の医療機関に受診する場合の多いことが示されている。特に平野区においては 52.7%の患者が市外の医療機関を受診している。

⑦医療機関別患者数(公的システム)

休日急病診療所(小児のみ) - 合計 1,090 人 (図 14) 十三 83 人、都島 224 人、西九条 156 人、今里 170 人、中野 258 人、沢之町 194 人

十三休日急病が最も少なく、中野休日急病が最多でその 82.2%が平野区と東住吉区の住民であった。休日に時間外診療を行っている医療機関の多い北部や西部では受診者が少ない。

中央急病診療所 (図 15)

-合計 1,307 人、

大阪市住民 1,212 人(92.7%)

同所に距離的に近い西区、此花区、港区、大正区や小児人口が多い平野区からの受診者が多い。しかし、隣接する福島区からの受診者はゼロであった。全体的には距離に逆相関する傾向にある。

⑧医療機関別患者数(公的システムを除く)(表 6 : 図 16)

公的システム以外で時間外診療を行っている医療機関を図示した。北部においては、中野小児病院と淀川キリスト教病院が、西部においては千船病院、東部では大阪赤十字病院、南部においては南大阪病院が多くの患者の診療を行っている。そして、平野区、東住吉区、生野区には時間外診療を行う医療機関が存在せず、周辺各市の医療機関に頼っていることを示している。

⑨深夜帯における医療機関 (表 7 : 図 17)

時間外診療が可能な医療機関の数は、夜間に減少するといわれている。こうした現象の患者動向に対する影響を検討した。午前 0 時から 9 時までの間に大阪市在住の患者が受診した病院を以下に示す。大阪市が設置する中央急病診療所が全体の 41.3%を占めており、市内医療機関に受診する割合は、82.7%であった。平野区について夜間の受診状況を見てみると、全時間帯の結果に比して、市外受診の傾向はさらに顕著となる(市外医療機関に受診する割合 64.4%)。この傾向は東淀川区においても同様、特に深夜帯に認められた(同 55.0%)が、他の区では大きな変動は認められなかった。

⑩公的システムの早朝空白時間帯 (図 18)

中央急病診療所の診療時間は午前 6 時までとなっており、午前 9 時まで公的システムは空白となる。この間の受診動向を調べた。

全体では、137 人の受診があり、このうち中野小児病院が 29 人/月(21.2%)で際立っている。

医療機関の数としては33ヶ所あったが、市内医療機関受診者は105人(76.6%)であり、他の時間帯に比べて市外医療機関への依存度は高くなっている。

(4)大阪市における時間外患者数(二次救急)

①入院総数

入院患者総数は287人、入院率は5.0%であった。また、大阪市内の医療機関が扱った入院患者総数は、270人(市外居住者も含む)であった。

②年齢別入院数(図19)

3歳未満が53.9%を占め、7歳未満の乳幼児では81.7%であった。

③曜日別入院数(図20)

診療時間の長い、日曜、祝日および土曜日に多く、平日での変動は少ない。

④時間帯別入院数(図21)

17時から23時までが多く、この5時間に全体の46.3%が入院している。

⑤住所別入院数(図22, 23)

平野区が圧倒的に多くで、次いで小児人口の多い東淀川区、城東区、東住吉区、住吉区といった各区である。これを小児人口千人あたりで比較してみると平野区の突出は減少するものの、入院を要する重症患者の多い区と少ない区に分かれる。

⑥医療機関別入院数(表8: 図24)

中野小児病院(旭区)、南大阪病院(住之江区)、大阪赤十字病院(天王寺区)の3病院で全体の37.3%を占めている。地域的には東南部での少なさと東南部に接する周辺各市での入院が目立っている。大阪市住民が市内の医療機関に入院する割合は、77.7%であった。

図1: 大阪市の位置、大阪市区分と小児人口分布

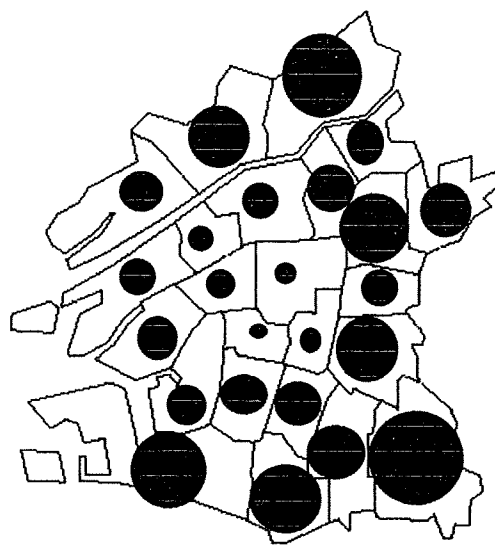
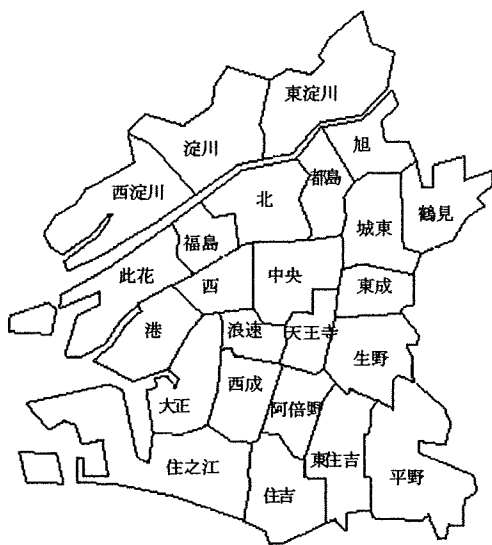


表 1 : 各区の人口と 15 歳未満の小児人口(平成 7 年国勢調査)

人口		小児人口					
北	85,487	9,856	淀川	162,022	20,172	天王寺	55,611
	8,019						
都島	98,045	14,167	東成	78,736	10,053	住之江	138,944
	23,962						
福島	55,104	7,106	生野	149,271	20,101	浪速	49,122
	4,729						
此花	68,529	9,811	旭	102,500	12,690	東住吉	141,447 18,505
中央	52,874	5,337	城東	155,597	21,020	西淀川	91,134 13,259
西	58,674	7,634	鶴見	97,843	16,590	東淀川	185,931 25,977
港	89,527	12,188	阿倍野	102,753	12,753	西成	141,849 13,784
大正	78,372	11,266	住吉	162,493	22,415	平野	200,556 30,335

図 2 : 大阪市基本医療圏

図 3 : 中央急病診療所と休日急病診療所

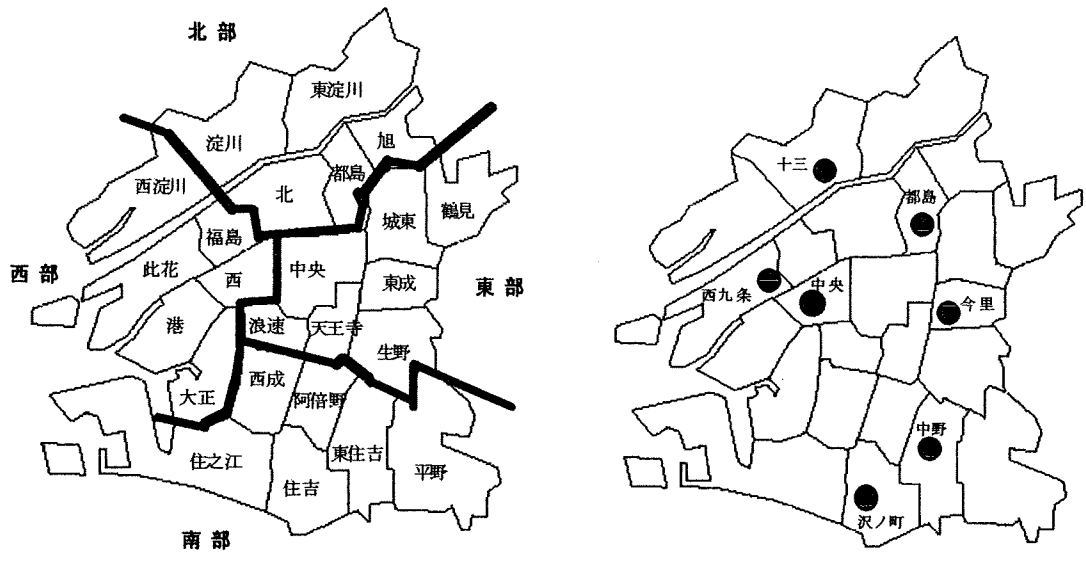


図 4 : 休日昼間帯

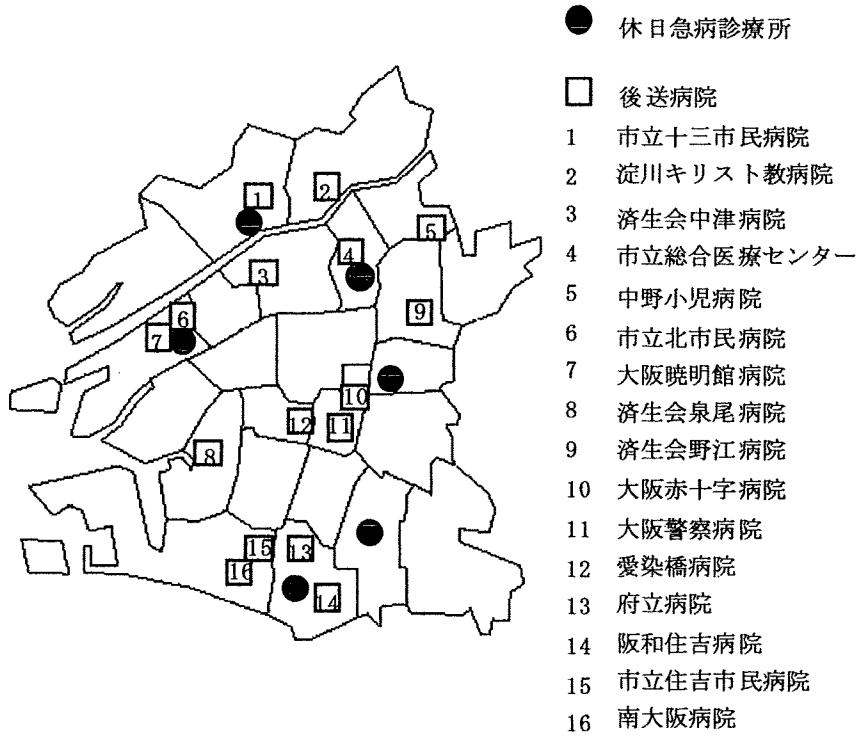


図 5 : 夜間

図 6 : 救急診療医療機関

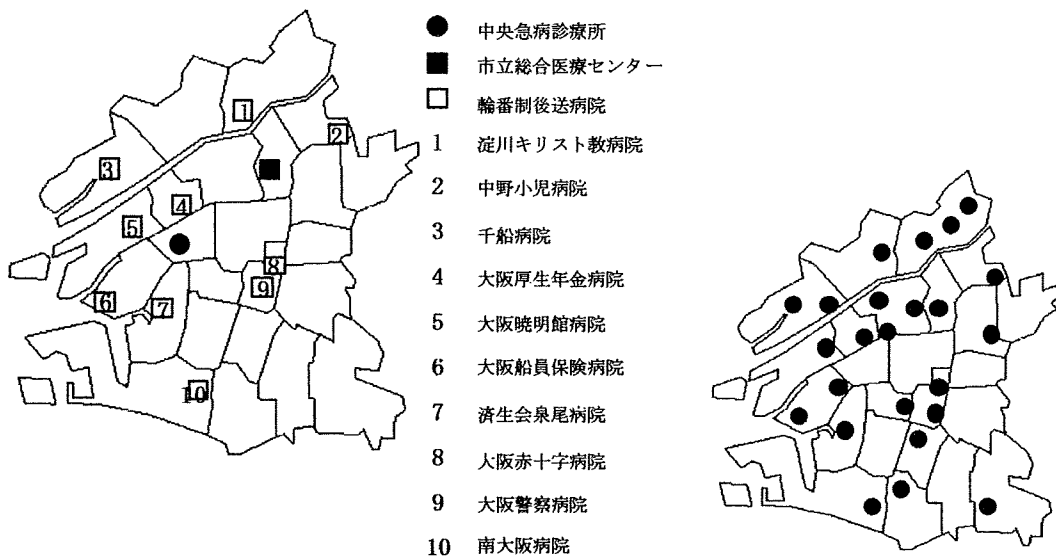


表 2 : 図 7 : 時間外患者(年齢分布)

年齢	割合(%)
0	20.4
1	20.0
2	12.8
3	11.1
4	9.3
5	7.3
6	4.5
7	3.5
8	2.9
9	2.0
10	1.7
11	1.5
12	1.1
13	1.0
14	0.8

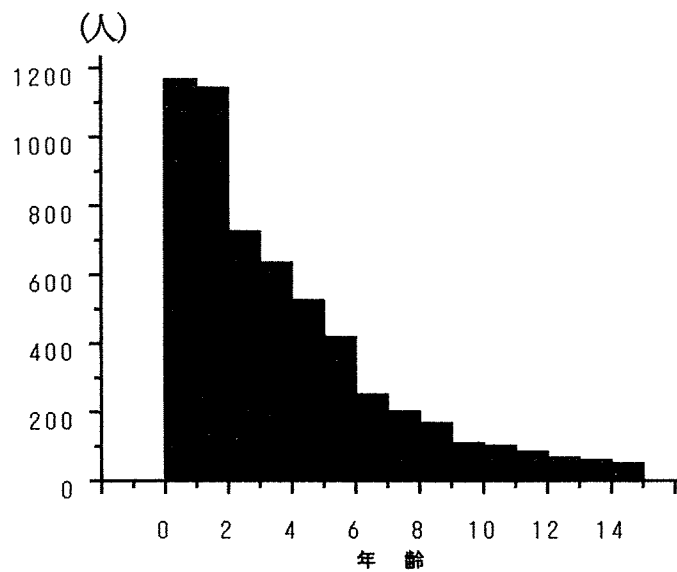


図 8 : 年齢分布(準夜帯)

図 9 : 年齢分布(深夜帯)

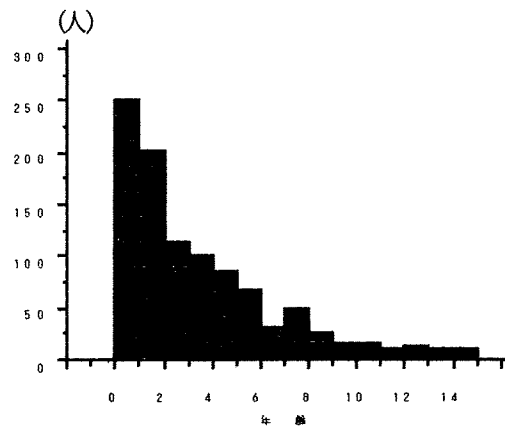
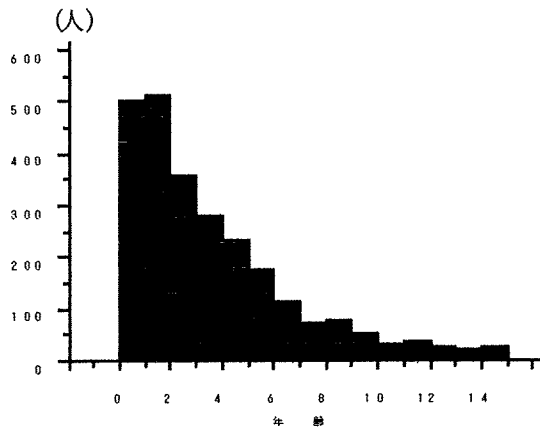


表 3 : 図 10 : 時間外患者(曜日別)

曜日	割合(%)
日	33.1
月	7.1
火	7.8
水	6.9
木	7.1
金	6.9
土	12.3
祝日	18.9

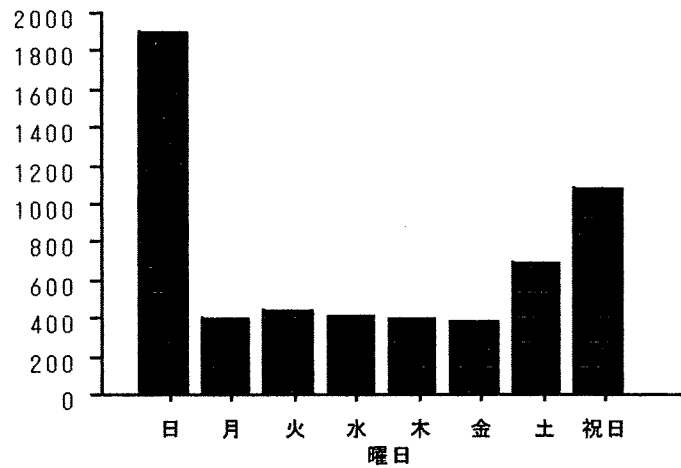


表 4 : 図 11 : 時間外患者(時間帯別)

時刻	割合(%)	時刻	割合	時刻	割合
0	4.5	8	0.9	16	4.7
1	3.5	9	2.9	17	5.8
2	2.7	10	8.0	18	5.9
3	2.4	11	5.6	19	6.6
4	1.6	12	2.9	20	6.8
5	1.1	13	3.6	21	7.7
6	0.8	14	3.4	22	7.5
7	0.7	15	4.1	23	6.1

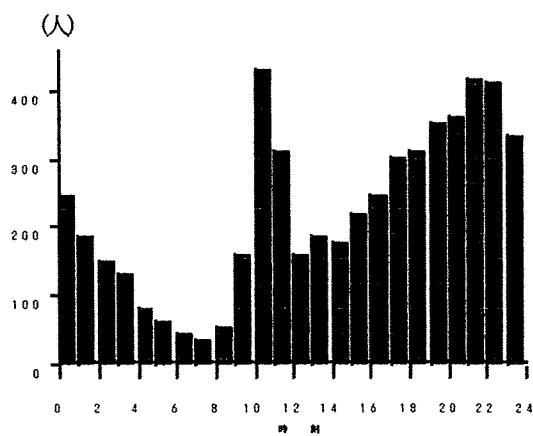


表 5 : 時間外患者(住所区別)

区名	患者数	/小児千人	区名	患者数	/小児千人	区名	患者数	/小児千人
東淀川	359	13.7	東成	179	17.8	港	237	19.4

淀川	284	14.1	生野	251	12.5	大正	160	14.2
旭	209	16.5	天王寺	135	16.8	西成	214	15.5
都島	213	15.0	浪速	85	18.0	阿倍野	179	14.0
北	189	19.2	西淀川	256	19.3	住之江	394	16.4
中央	81	15.2	福島	91	12.8	住吉	350	15.6
城東	335	15.9	西	133	17.4	東住吉	313	16.9
鶴見	256	15.4	此花	198	20.2	平野	632	20.8

図 12 : 時間外患者数(住所区別)

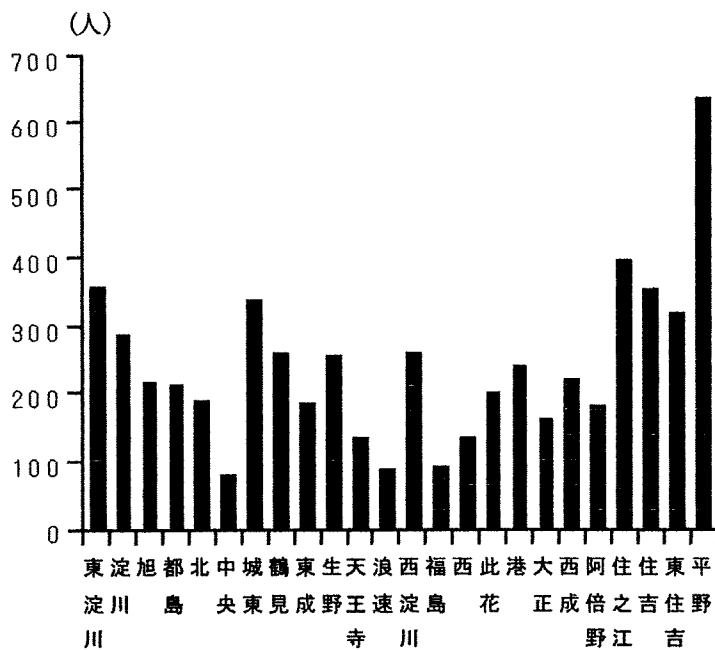
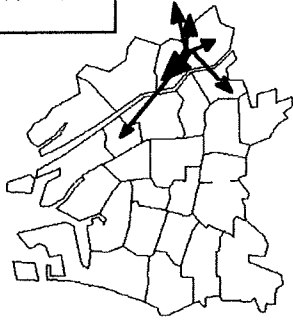
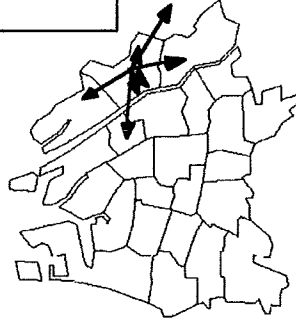


図 13 : 住所区別受診医療機関

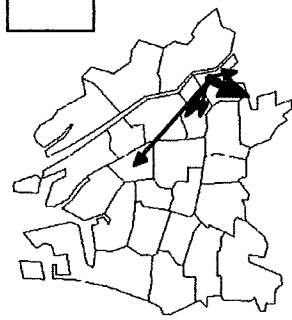
東淀川



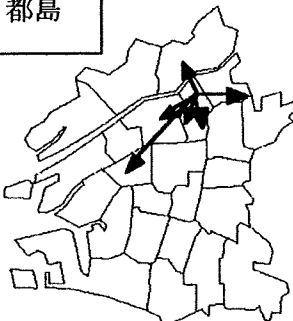
淀川



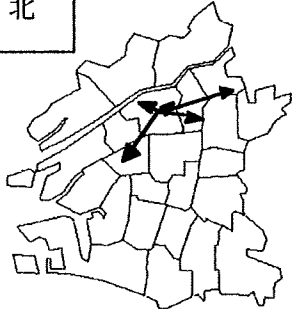
旭



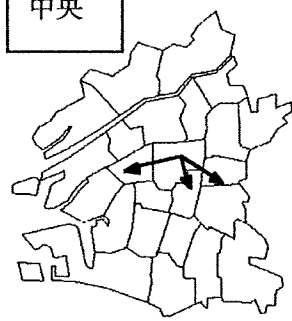
都島



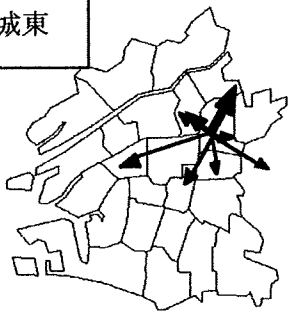
北



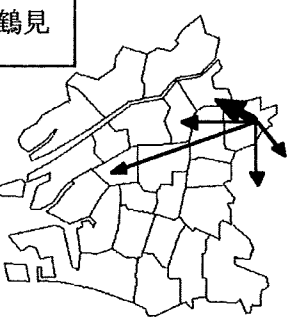
中央



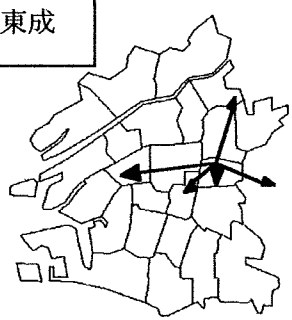
城東



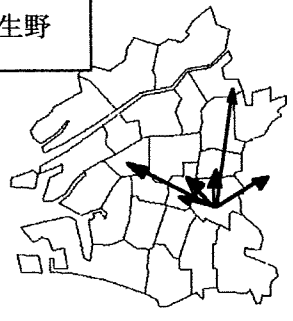
鶴見



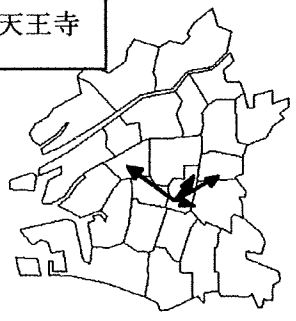
東成



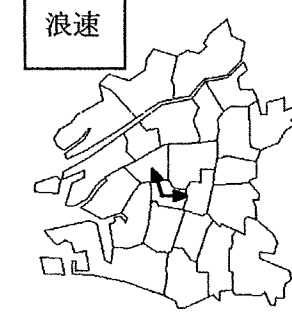
生野



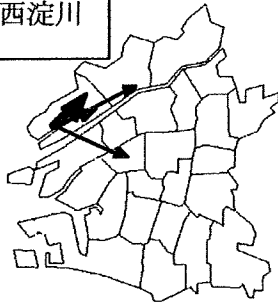
天王寺



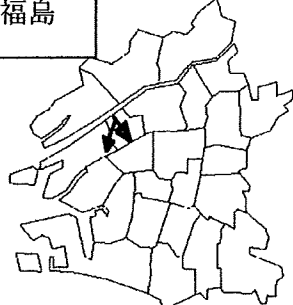
浪速



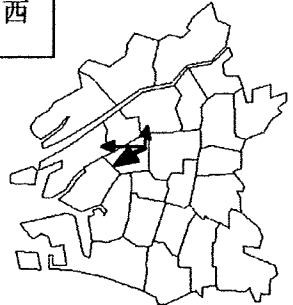
西淀川



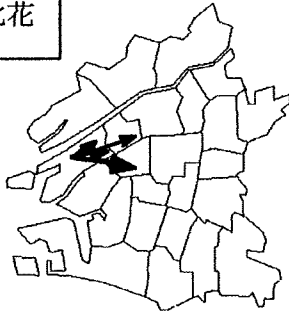
福島



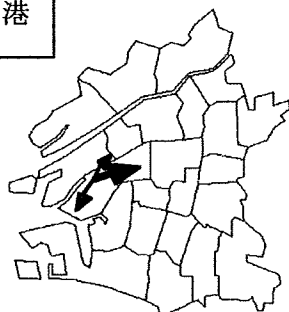
西



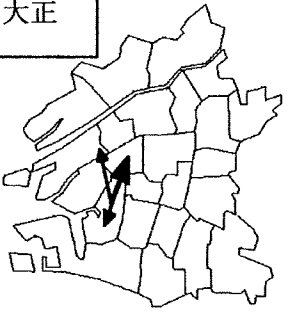
此花



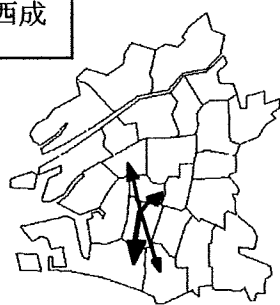
港



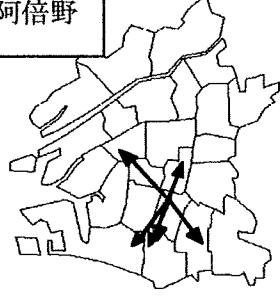
大正



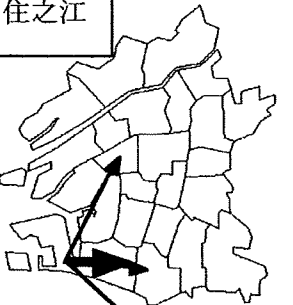
西成



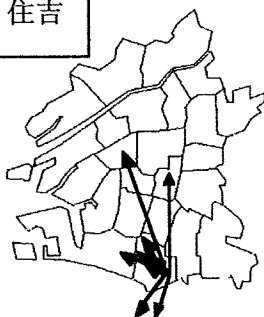
阿倍野



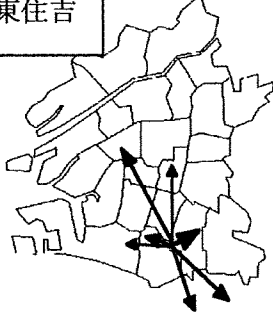
住之江



住吉



東住吉



平野

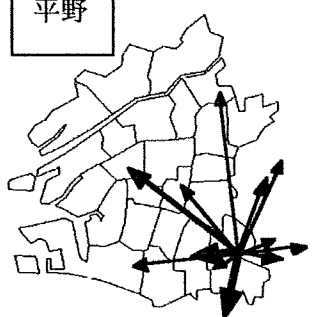


図 14：休日急病診療所患者数

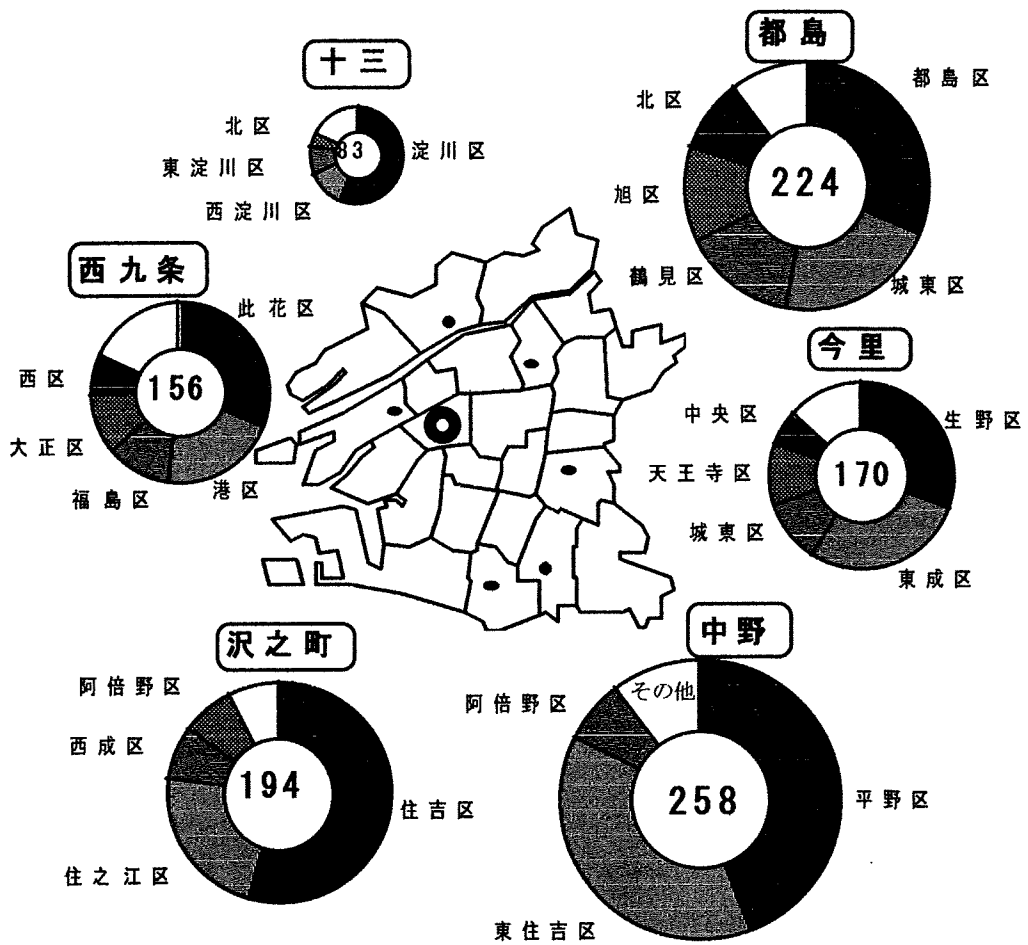


図 15：中央急病診療所患者数

